

雲仙天草国立公園(天草地域)における国立公園満喫プロジェクトの取組方針

はじめに

1 国立公園満喫プロジェクトの目的・経緯

国立公園満喫プロジェクト(以下「本プロジェクト」という。)は、平成 28 年(2016 年)3 月 30 日に観光ビジョン構想会議(議長:内閣総理大臣)がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の 10 の施策のひとつとして、国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標とし、日本の国立公園を世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にするための取組みとして始まった。

本県においては、平成 28 年(2016 年)7 月、全国の国立公園 34 箇所のうち先行的に取組むモデル公園の 1 つとして「阿蘇くじゅう国立公園」が環境省により選定され、阿蘇くじゅうの最大の魅力である草原の維持・再生をはじめとした上質な景観保全、および多様な宿泊施設の確保などによるインバウンド(訪日外国人の旅行)や滞在客の増加を図るため、平成 28 年度(2016 年度)から令和 2 年度(2020 年度)までの 5 年間を計画期間として取り組んできた。

しかし、近年の新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、国内外からの国立公園利用者は大幅に減少しており、コロナ収束後のインバウンドの復活を見据えた受入れ環境の整備等を引き続き進める必要があることから、令和 3 年度以降については、国内誘客の強化を図るとともに、8 公園の実績を踏まえて、その他の国立公園に水平展開するなど、新たな展開を図りながら本プロジェクトを継続(当面の目標として 5 年間)することが環境省により決定された。

この決定を受け、本県では、これまで取組みを進めてきた阿蘇くじゅう国立公園に加え、令和 3 年度から「雲仙天草国立公園」においても本プロジェクトに取り組むこととした。

2 雲仙天草国立公園の特徴

本国立公園は、昭和 9(1934)年に我が国最初の国立公園の一つ「雲仙国立公園」として誕生し、昭和 31(1956)年には天草地域が追加され、現在の「雲仙天草国立公園」となった。本国立公園の特徴として、湯けむり漂う雲仙岳の火山景観と、島々が連なる天草の海洋景観が織り成す、水陸の大展望があげられる。

雲仙地域は、20 を超える山々から成る雲仙岳を中心とした島原半島の山岳地域で、三方の海とのセットで様々なパノラマが楽しめ、山名の由来である地獄の温泉をはじめ、火山活動を随所で体感することができる。

また、天草地域は、大小 120 の島々を含む多島海で、沈降海岸特有の湾入、^{ちんこうかいがん}陸繋島^{りくけいとう}や海蝕崖^{かいしよくがい}など、海岸は変化に富み、海中ではサンゴ類も見ることができる。

両地域は、「島原・天草一揆」で知られるキリスト教の歴史をはじめ、海外文化がいち早く到来した地域であり、多くの史跡が残されている地域である。

雲仙天草国立公園（天草地域）での取組みにおける基本的な考え方

1 取組みの基本的な考え方

本プロジェクトに取り組むにあたり、当地域の特徴である多島海が織りなす美しい景観や高舞登山から龍ヶ岳に連なる観海アルプス、白亜紀の地層からなる御所浦島などの豊富な自然資源を活用して、本国立公園への国内外からの誘客に繋がる取組みを進める必要がある。

併せて、当地域の最大の特徴である、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録された「天草の崎津集落」をはじめとした『キリシタン文化』などの文化資源も活かした取組みを行うことが効果的であり、以下のとおり取組方針を定める。

< 取組方針 >

海や山の豊富な自然資源とキリシタン文化を活かした雲仙天草国立公園への誘客の推進

2 取組みの柱

1の取組方針のもと、以下の施策を取組みの柱として、関連する行政機関や観光事業者、交通事業者等との連携を図りながら、雲仙天草国立公園（天草地域）における取組みを推進する。

【施策1】本公園の魅力の創出、磨き上げ

当地域の西海岸の夕日やキリシタンに関連する歴史・文化などの、本国立公園がもつ優れた自然資源（景観、体験、温泉、食等）や歴史と文化を十二分に活用し、その場所でしか味わうことの出来ないコンテンツを造成・磨き上げる。

【キーワード】

○キラーコンテンツづくり

- ・イルカウォッチング
- ・天草西海岸クルーズ
- ・温泉資源の活用（上天草温泉郷等）
- ・自然を活かしたアクティビティ（サイクル、トレッキング、オルレ、釣り等）
- ・恐竜の島 御所浦（烏峠等）
- ・龍ヶ岳山頂キャンプ場
- ・ビジターセンター（天草、富岡）
- ・白嶽ジップライン
- ・湯島
- ・フィッシャリーナ天草
- ・キリシタン関連施設（世界文化遺産「天草の崎津集落」、天草コレジヨ館、天草四郎ミュージアム、天草キリシタン館、大江教会等）との連携

【施策2】インバウンド対策を含む受入環境の整備

当地域でしか体験できない自然体験を支援するガイド等の育成や多くの来訪者が利用する施設の改修、案内看板等の多言語対応など、国内外から訪れた方々の受入環境を向上させるためのソフト面、ハード面での整備を行う。

【キーワード】

- 受入環境の整備（ソフト）
 - ・自然体験を支援するガイド等の発掘、育成（既存ジオガイド等の活用）
 - ・統一的な予約受付体制
 - ・インターネットサイト等の多言語対応
- 受入環境の整備（ハード）
 - ・案内看板等の多言語対応
 - ・通景伐採等の引き算の景観改善
 - ・自然公園施設（トイレの洋式化、駐車場、休憩舎等）の改修
 - ・富岡地区の整備（ビジターセンター展示施設、富岡海域公園等）

【施策3】本公園への誘導策・プロモーションの実施

当地域における主要なアクセス道路の整備を引き続き行う。また、国内外に住む人々に本国立公園を知ってもらい、さらに来てもらうため、SNS等も活用した情報発信を行う。

【キーワード】

- SNSやブログ、インターネットを活用した情報発信（リモート観光）
美しい自然景観（天草絶景 STORY）
- 誘客イベントの開催等に合わせた情報発信
- 近隣の国立公園にあるビジターセンター等での情報発信
- 主要なアクセス道路の整備
 - ・熊本天草幹線道路（本渡道路、大矢野道路など）
 - ・一般国道389号（下田南バイパス）など
 - ・主要地方道本渡牛深線（下平工区）など

【施策4】滞在の長期化・広域周遊ルート等の整備

当地域は東西に非常に広大な範囲となっており、サイクルツーリズム等への取組みと連携した各拠点を周遊する広域周遊ルートの提案や、コンテンツ等の多様性を図るなどしながら来訪者の滞在の長期化に繋げる。

また、滞在の長期化による消費額の増加を図ることで、地域経済への貢献に繋げる。

【キーワード】

- 各拠点を周遊するルートの提案
 - ・上天草市（前島地区（リゾラテラス等）宮津地区（天草四郎ミュージアム等）
樋合地区（フィッシャリーナ天草等））
 - ・天草市（イルカセンター、崎津集落、御所浦白亜紀資料館等）
 - ・苓北町（富岡城、富岡ビジターセンター等）
- サイクルツーリズムとの連携

3 全体目標

雲仙天草国立公園（天草地域）の利用者数（来訪者数）は、環境省が発出する「自然公園等利用者数調」によると、2018年に404万人であった。また、天草地域（2市1町）における宿泊者数は、各市町の統計等によると、2018年に約55万人であった。

今後取組みを進めるにあたっては、現在流行している新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、現時点では令和5年度（2023年度）までの目標値を設定することとし、2023年に利用者数440万人、宿泊者数60万人（ともに2018年の1割増）を目指して取組みを進めていく。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症等の状況もみながら、目標値については変更していく。

宿泊者数について、天草地域を訪れた者は公園区域内にも立ち寄ると想定されることから、公園区域内に限定せず天草地域（2市1町）全域における数を目標値とする。

4 取組み期間

環境省では本プロジェクトの取組み期間について、当面の目標として5年間取り組むこととしており、雲仙天草国立公園（天草地域）における取組みについても、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）の5年間とする。

なお、雲仙天草国立公園は、長崎県・鹿児島県にまたがっており、さらに世界文化遺産や九州オルレ等の共通するコンテンツを有していることから、隣県および国立公園を所管する環境省と情報共有を図りながら取組みを推進していく。



熊本県内 雲仙天草国立公園 区域

天草津

天草市

上栗町

八代海 (阿蘇外海)

阿蘇町

熊本町

水原町